

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年11月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2293100026		
法人名	株式会社オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷		
所在地 (電話番号)	庵原郡富士川町中之郷3152-1		(電話) 0545-81-5108

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年7月29日		

## 【情報提供票より】(20年7月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤 5人 非常勤 10人	常勤換算 8.4人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	2階建ての 1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃[平均月額]	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
1日当たり 1,200円			

### (4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名	
要介護1	1名	要介護2	4名			
要介護3	6名	要介護4	4名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	81歳	最低	56歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林医院	折原歯科医院
---------	------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域住民の反対を受けての開設であったが、より深い交流に努め、現在は温かな理解、協力、支援を受けている。残存機能の低下防止に取組み、胃漏で入居された方が口から食べ物を摂られる迄になった経験は職員にとって喜びと自信になっている。利用者家族に造園業者の方が居り、庭はいつも季節感のある手入れがゆき届いている。管理者の熱い想いと、日々の学びが充実しているという職員の前向きな姿勢が、これからも期待の大きなホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価に取り組み、全員で話し合い、それを基に作成した。職員間で十分な話し合いが行われ、取り組み方や考え方を確認し、共有することができた。</p>
重点項目②	<p>2か月に1回、住民代表や民生委員、町職員、家族代表等の参加により開催している。ホームの運営状況や課題を意見交換できる場として活用し、サービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との関わり合いを大切に考え、月1回のホーム便りと電話での報告を行なっている。また家族の来訪も多く、その際に意見、苦情、要望等を出してもらい、その都度話し合いをしながら解決していくように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは住宅地にあり、近くには地域住民のイベント広場や「老人の憩いの家」があり、諸行事の情報をいただくなど地域交流の環境に恵まれている。日々の散歩の折には言葉掛けや野菜をいただいたり、急な雨降りには一緒に洗濯物を取り入れるなど、住民の暖かな協力が心強い。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を「家庭的な雰囲気」「一人ひとりの生きがい」「個人としての尊敬」とし、分かりやすい言葉で表現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	社長・ホーム長は、理念について、機会ある毎に職員と話し、職員もその意味を理解し、日頃の支援に反映できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会、地域行事に積極的に参加したり、ボランティアや幼稚園児等の来訪も多い。若いお母さんが赤ちゃんを連れて立ち寄ったり、迷子になったお年寄りの家を探してあげたりとよい関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価報告書を記入し、それを基に話し合い作成した。これにより職員が支援、サービス、実践の取り組み、考え方を再認識する機会となり、課題を共有して改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、住民代表、民生委員、町職員、家族等の参加により開催している。運営状況、行事、事故報告等を行い、さらに出席者から意見をもらい、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当課、地域包括支援センター等へ出向き話し合う機会は多い。また情報を得て、より良い支援に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、日々のスナップ写真入りのホーム便りを送っている。また近況報告の電話は必ず月に1回以上行っている。日頃家族の訪問は多く、その折に詳しい話しをしたり、職員の異動を伝え紹介している。	○	家族等が知りたい点を考慮して、報告の方法をさらに工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の窓口については重要事項説明書に明記し、説明している。訪問時に話をしたり、会話の中からの見極めを大切にし、運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間で行なっている。日頃から利用者同志ユニットへ行き来し、職員ともなじみになっているので、利用者にとって無理なく受け入れられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、勤務年数や経験に応じて勤務時間内に受講できるようにしている。内部研修は、専門職の講師を招いて毎月テーマを決め取り組み、日々の実践に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者は無いが、近くの老人保健施設との交流があり、情報交換をしたり相談に乗ってもらうなど、サービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当者が訪問し、話を聞きながら、事前に情報収集を行なっている。また家族と利用者がホームを訪問、見学、お泊り体験等を行い、雰囲気馴染んでもらう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃の関わりの中から利用者の「できる事」を見極め、活かすように努めている。職員と一緒に暮らす中で、利用者が体得している様々な、しきたりや暮らしの知恵を学ばせてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がホームに慣れ、職員との信頼関係ができてから、それぞれの真の思いや意向が見えてくるものと考えている。家族から生活暦、習慣、趣味等情報収集を行ったり、表現の困難な方はしぐさや表情等で想いを理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人の希望を第一に、家族の意向、医師の意見等を聞き、ケアマネや担当者が中心となってスタッフ全員で意見を出し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1度結果を話し合い、次のステップにつなげている。変化が生じた時は、その都度必要な関係者と話し合い、家族の意見を聞きながら当面のプランを作り、全職員で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時等、家族に代わって通院を支援したり、近くのデイサービスと交流があり、協力体制ができています。	○	利用者や家族等の状況を見極め、必要なサービスを提案するなど、より柔軟な支援を期待する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度協力医の往診がある。かかりつけ医を希望する利用者には、必要に応じてバイタルチェックや近況等の情報提供を行い、適切な医療を受ける事ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに3件の実績がある。本人や家族の意向を聞き、医師や職員等関係者間で話し合い、方針を共有している。	○	早い段階から話し合いの機会を作り、また本人や家族の気持ちの揺れにも配慮し、状況に応じた話し合いの積み重ねを大切にされたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアは言葉かけを重視し、利用者の意思を尊重し、年上の方としての敬意を持って接している。また職員は守秘義務について常に話し合い、個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調、様子を見極め、可能な限り、一人ひとりの生活リズムやペースを尊重できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望、季節感、栄養のバランス等を考えて作成している。食事中はテレビを消し、職員と一緒に何気ない会話を楽しんでいる。配膳、片付け等できる人が一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や時間帯は一人ひとりの希望に沿って支援している。入浴拒否の方はタイミングを見計らって勧めている。季節に応じて菖蒲湯、ゆず湯等を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しやたたみ、食事の支度、掃除や草花の水やり等それぞれができることを活かし、役割が自然にできあがっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物、ドライブ、外食、ディーサービスへの訪問と外出の機会が多い。天気が良いと散歩に出る人も多く、一人ひとりの希望に合わせて支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々来訪者が多く、鍵は掛けていない。玄関横の事務室や玄関前の厨房から出入り口付近が見渡せるので、利用者の様子を見守るようにしている。利用者の状況に応じて施錠する場合があるが、言葉掛けや見守りを大切にしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を行なっている。職員、利用者に予告なしの訓練を試みたが、日頃の訓練通り非難することができ、訓練の大切さを再確認した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回チェックし記録している。嚥下障害がある人等、一人ひとりの状態に合わせ、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内での利用者の動きは一目で把握できる設計で採光も良く、大きな丸テーブルは和やかな家族の輪が感じられる。車椅子から移乗できる高床の畳が設置されていたり、浴室、トイレも広く明るく、介助しやすく、さりやすい設備となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、一人ひとりが機能に合わせた使い勝手の良い馴染みの物や好みを活かし、個性ある安らぎの場となっている。		